



すべての記録型DVDメディアを網羅した
最新のマルチドライブ

DVR-A10-J

●パイオニア ●03-3206-0678 (エスティレートド)
●<http://www.pioneer.co.jp/> ●標準価格：オープン



新たにDVD-RAMにも対応し 各メディアで高速書き込み

パイオニアのDVR-A10-Jは、現在利用できる記録型DVDメディアのすべてに対応したドライブだ。特にDVD-RAMの書き込みにも対応し、マルチと呼べるドライブになった。

書き込み速度は、DVD±Rについては前機種と同じく16倍速だが、これは現在販売されているドライブとしては依然として最高水準である。速度について特筆すべきは、DVD±R DLはいずれも8倍速と、前機種DVR-A09-Jの6倍速からさらに高速化されていることだろう。この2層メディアへの書き込みの高速さは、他のドライブに比べて抜きん出ている。なお、DVD-RWは6倍速、DVD+RWは8倍速、DVD-RAMは5倍速となっており、いずれも現在のドライブとしてトップクラスだ。

しかも、記録型CDにも高速で書き込める点は見逃せない。CD-Rの40倍速は前機種と同じだが、CD-RWでは32倍速と、前機種の24倍速よりさらに高速化されている。データ用としてはDVDメディアの方が大容量だが、データの容量や受け渡しする際の相手の環境によっては、CD-R/RWの方が安価で手軽という場面もある。CDの読み書きも高速な方が良いことは言うまでもないだろう。

パイオニアならではの技術が 高信頼性と静音性を実現

DVR-A10-Jについては、単に高速に書き込めるだけでなく、パイオニアならではの技術により、高い信頼性と、動作の静粛性とを両立させている点が特に注目される。

その1つが「液晶チルト」と呼ぶテクノロジー

だ。これは、記録型DVDメディアの保護層の厚さのばらつきや、マウント時のわずかな傾きなどによって生じる光学系の収差を、レーザー光源と対物レンズの間に配置した「液晶相補正素子」と呼ばれる部品によって補正するものだ。DVR-A10-Jではこの補正機構がマルチエフェクトタイプとなっており、記録精度をさらに向上させている。

読み書きが高速になるということは、ディスクの回転数が高くなることであり、対策をしなければ振動や動作音も大きくなってしまふ。振動は読み書き精度を下げる要因ともなり、できるだけ抑えなければならない。DVR-A10-Jでは「Ultra DRA」という仕組みによって、高速回転時の振動を吸収している。

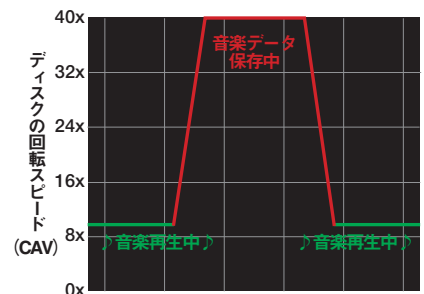
静音性については、ハードとソフトの両面から対策が施されている。まずディスクの高速回転時に発生する気流を調整し、いわゆる「風切り音」の発生を抑制。内部構造には防塵・防音パッドが装備されている。さらに、筐体にはパイオニアのオーディオコンポーネント製品で実績のある独自のハニカム構造を採用し、静音設計を徹底している。また「アドバンスド静音ファームウェア」では、利用状況に合わせてメディアの回転速度を抑制し、より静かな動作を実現している。

あらゆるメディアに対応し、高信頼性と静粛性に優れたDVR-A10-Jは、すべてのユーザーが安心して選べる製品と言えるだろう。

●対応フォーマットと書き込み速度

DVD-R、DVD+R	16倍速
DVD-R DL、DVD+R DL	8倍速
DVD-RW	6倍速
DVD+RW	8倍速
DVD-RAM(カートリッジなし)	5倍速
CD-R	40倍速
CD-RW	32倍速

■音楽再生中と音楽データコピー中の ディスク回転速度のイメージ



アドバンスド静音ファームウェアは、音楽再生中は低速回転に抑えて静音を保ち、音楽データをハードディスクに保存する際には高速回転して高い性能を発揮する



筐体上部にはパイオニアのオーディオコンポーネント製品で実績のある独自のハニカム構造を採用し、静音設計を実現した筐体となっている

SPEC LIST

- 動作環境
- 書き込み可能メディア：DVD±R/RW、DVD±R DL、DVD-RAM(カートリッジなし)、CD-R/RW
- インターフェイス：ATAPI
- OS：Windows XP SP1以降/2000 Professional SP3以降
- CPU：Pentium III 800MHz以上(Pentium 4 2.2GHz以上を推奨)
- メモリ：128MB以上(256MB以上を推奨)
- HDD容量：2GB以上の空き容量(7GB以上を推奨)
- バッファ容量：2MB
- サイズ(W×D×H)：148×180×42.3mm
- 重量：1kg